

八王子版

■発行: 株式会社タウンニュース社 <https://www.townnews.co.jp>

■編集室: 〒252-0239 相模原市中央区中央2-6-4 TEL: 042-753-8500 (代) FAX: 042-769-7001

2021年

(令和3年)

3月4日(木)

No.218

■発行責任者: 宇山 知成

■編集長: 齋藤明

五中 夜間学級を知って

「必要な人へ」連絡会が活動



全国では34校ある中学校夜間学級（通称・夜間中学とも）は、戦後に勤労学生や家庭の事情で学校に通えなかつた人のために中学校に付設された。高度経済成長期にはそういったニーズは失われたが、1990年代に入ると「不登校」が注目されるようになり、学び直しの受け皿としての役割が期待されるように

不登校だった人や、祖国で教育が受けられなかつた外国人の受け皿として教育を提供している中学校の夜間学級。市内には多摩地域唯一の夜間学級がある。「そのことを広く知つてもらい、必要な人に情報が届くようにしたい」と新たな団体が立ち上がつた。

不登校だつた人や、祖国で義務教育を受けられなかつた外国人も増えている（全体の8割）。年齢構成は15～19歳が約20%、60歳以上が27%で、他の年代より多い。

多摩地域で初めての中学校夜間学級が市立第五中学（明神町）に開設されたのは1952年。2018年度時点では1人が卒業している。

日本語学級開設の検討を求める請願」が決議されたという。しかし、「それから2年経つが、具体的な動きがない」（加藤さん）ことから今回、連絡会を結成。「五中夜間

多摩エリア唯一

日本語学級開設の検討を求める請願」が決議されたという。しかし、「それから2年経つが、具体的な動きがない」（加藤さん）ことから今回、連絡会を結成。「五中夜間

日本語学級開設の検討を求める請願」が決議されたとい

う。必要としている人に情報が届いていないのかもしれない」と加藤さん。「実際に1961年に、立川の第三中学校の夜間学級が廃止されたことがある」と危機感を抱く。

外国人との多文化共生を研究する大学講師で八王子に暮らした経験のある大重史朗さん（56）は

「すぐに廃止されることはないと思うが、生徒の数によって教員の配置数も変わつてくる。減れば生徒に目が届きにくくなるし、ひいては教育の質の低下につながりかねない」と危惧する。一方、「かつての市民運動のよう行政と対立するのではなく、手をとりあってより良い方向に進む好例になれば」と活動に期待を寄せる。

今が山場

日本語学級の開設などを求めた署名活動を開始した。累計で2519筆が集まつたという。

そのかいもあつてか、市による募集チラシの多言語化が実現したそう。

そのかいもあつてか、市による募集チラシの多言語化が実現したそう。

そのかいもあつてか、市による募集チラシの多言語化が実現したそう。

行政でも動き

八王子市議会で18年に同学級の一層の周知と

八王子市議会で18年に同学級の一層の周知と

八王子市議会で18年に同学級の一層の周知と

八王子市議会で18年に同学級の一層の周知と